2003 年度 委員会活動成果報告

（2004 年 3 月 15 日作成）

委員会名	テンション構造小委員会	主 査 名：斎藤　公男
所属本委員会 （所属運営委員会）	構造委員会 （シェル・空間構造運営委員会）	委員長名：西川　孝夫 主 査 名：坂　壽二
設　置　期　間	2000　年　4　月　　～　　2004　年　3　月	
設　置　目　的 各年度活動計画	IASS（国際シェル空間構造学会）2002 の Journal に掲載した”Recent Spatial Structures in Japan”に基づく事例の調査分析 最近の事例調査結果を分析し、その成果を新「シェル・空間構造」セミナーにおいて、「テンション構造の最近の動向と課題」と称するセミナーの実施	
委員構成 （委員名（所属））	主査：斎藤 公男（日本大学），幹事：岡田 章（日本大学），阿部 優（法政大学），大山 宏（千葉大学），川口 衛（川口衛構造設計事務所），北沢 寛（東京製鋼），小堀 徹（日建設計），昇高 淳（大林組），坪田 張二（鹿島建設），中島 肇（清水建設），中田 捷夫（中田捷夫研究室），細沢 治（大成建設），真柄 栄毅（Architectural science Group），水口 茂（神鋼鋼線工業），望月 利男（太陽工業）	
設置 WG （WG 名：目的）		
2003 年度予算	100,000 円	

項　　目	自己評価
委員会活動状況 （開催日・参加人数）	月２回程度の小委員会の開催を予定していたが、新「シェル・空間構造セミナー」の実施に向けた活動以外には、委員が集合した形での委員会は実施できなかった。
得られた成果	（成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無） ・2002 年度の調査・分析結果を整理すると共に、「テンション構造を中心とした空間構造の課題と実例（仮題）」の発刊に向けて活動を行った。 ・ケーブル構造設計指針・同解説が刊行されて９年、スタジアム、アリーナ、ガラス・ファサードなど数多くのプロジェクトにテンション材（ストリングや膜）が適用されてきている。このような状況の下、従来のテンション構造の範疇を超えた構造システムやテンション材の新たな使われ方が出現してきている。以上の観点から、本セミナーでは、主にストリング（ケーブル、ロッド等）を使用したテンション構造を対象にして、二部構成で講演を行った。午前の第一部では、施工、評価モデル、ディテール、新しい膜、等についてテンション材に関わる今後の課題を、午後の第二部で実施例を紹介しながら、テンション構造に関わる新しい問題の提起がなされた。なお午前・午後のセミナーを通じて、会場の参加者を交えた活発な議論が展開された。
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	（当初の活動計画と得られた成果との関係） ・IASS（国際シェル空間構造学会）2002 の Journal に掲載した事例の調査分析を活動計画にあげ、「テンション構造を中心とした空間構造の課題と実例（仮題）」の発刊のための準備活動を行った（達成度 40%）。 ・当初の活動計画に沿って、新「シェル・空間構造」セミナーを企画し、実施を通してテンション構造の最近の動向と課題を整理した（達成度 100%）。
その他評価すべき事項	